

# 令和6年度 県中国研 第2回 代議員会・研究部総会合同会議

日時：令和7年2月19日（水）15：00～16：00

於：オンライン（Zoom）

## 【会次第】

司会：主務者 小宅 陽久

- 1 会長挨拶 (会長 岐阜清流中 村田 伊津子 先生)
- 2 令和6年度の活動の振り返りと令和7年度の活動の方向
  - ① 令和6年度の振り返りと令和7年度の活動について (不破中 小宅 陽久 主務)
  - ② 美濃大会についての振り返り (美濃大会実行委員長 下有知中 澤田 通直 先生)
  - ③ 美濃大会の研究・運営についての振り返り (下有知中 半田 啓之 美濃地区研究主任)  
(八幡中 上村 光一 美濃大会実行委員)
  - ④ 美濃大会の振り返り及び令和7年度の研究の方向  
美濃大会の総括及び令和7年度の研究について (岐阜中央中 北原 章大 研究総括)  
話す聞く研究構想 (上石津学園 片山 博寿 話す・聞く部長)  
書くこと研究構想 (東可児中 梅田 佳宏 書くこと部長)  
読むこと研究構想 (下呂中 上條 亘 読むこと部長)  
言語文化研究構想 (蘇原中 河合のぞみ 言語文化部長)  
「ぎふこくご賞」の応募・結果に関して (川辺中 細江 隆一 研究副総括)
  - ⑤ 令和7年度代議員への引き継ぎについて (八幡中 上村 光一 総務部長)
  - ⑥ 会計部、広報部、情報部、編集部から  
会計収支決算・予算について (笠松中 原 博一 会計部長)  
情報部の活動について (大垣市立北中 和田 光平 情報部長)  
機関紙「ぎふこくご」について (蘇南中 加藤 祐輝 広報部長兼編集部長)
- 3 ご指導 岐阜教育事務所 教育支援課 学校教育係 指導主事 一川 宗弘 様
- 4 おわりの言葉 (会長 岐阜清流中 村田 伊津子 先生)

## 令和6年度 研究部各部会

日時：令和7年2月19日（水）16：00～16：30

於：オンライン（Zoom）

## 【会次第】

司会進行：県中国研 領域部長 (片山 博寿、梅田 佳宏、上條 亘、河合 のぞみ)

- 1 美濃大会及び令和6年度の活動の振り返り
- 2 HPにアップする成果物の確認
- 3 令和7年度の研究構想及び令和9年度西濃大会について
- 4 令和7年度の研究部員継続のお願い  
(終了後、部会ごとに解散)

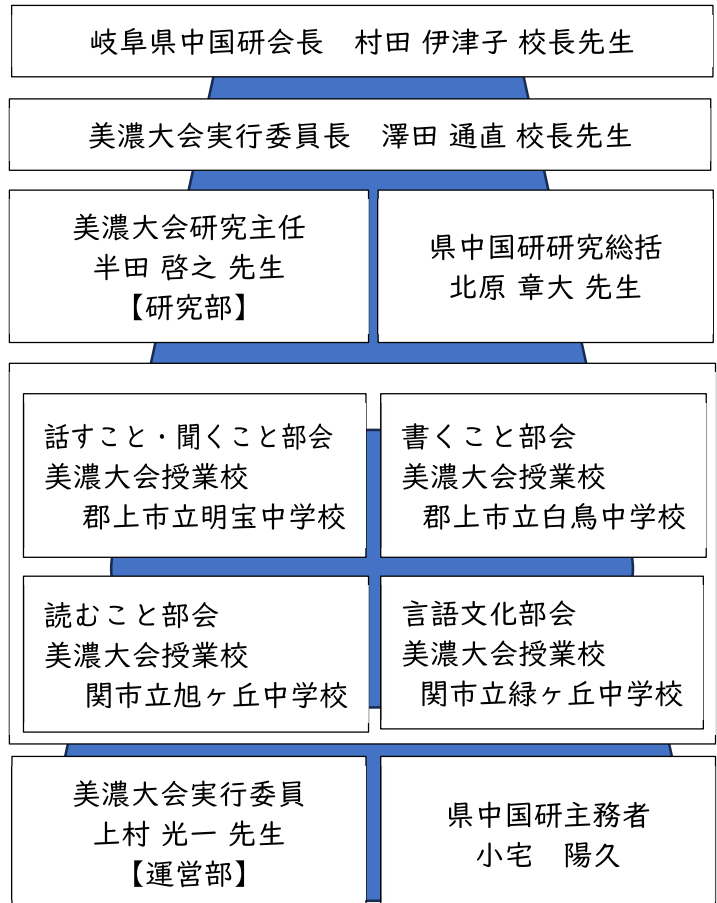
# 岐阜県中国研 令和6年度の活動の振り返り

垂井町立不破中学校 小宅陽久

## 岐阜県中学校国語科研究部会 美濃地区大会を振り返る

令和6年10月21日(月)、24日(木)に実施された「岐阜県中学校国語科研究部会 美濃地区大会」(以下、美濃大会)。美濃大会では、美濃地区の秋の市教研を公開授業(対面)とし、授業公開日に合わせてオンラインで全体会を実施しました。これは、各郡市にある国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けることで、県大会を開催していく意義が明確になると考えたからです。また、教員数の減少や働き方改革の推進についても考慮し、今後も岐阜県の国語科の先生方が学び合える持続可能な県大会になるようにしていきたいと考えたからです。右図は、美濃大会の組織図です。この三年間、県中国研と美濃地区の先生が共に歩み、研究実践を積み上げてきました[図1]。

この美濃大会に向けて、三年前から準備を開始し、当日の学習指導案や実践発表、研究構想について、研究部各部会、夏季ゼミナール(美濃大会準備会)で何度も話し合ったり、修正を繰り返したりしてきました[写真1]。県内各地の中学校の先生が関わっているため、対面で打ち合わせを行ったり、オンラインで議論したりと、共通理解を図ることがとても大変でしたが、「美濃地区の先生方同士が関わり合いながら、県大会を実施することができた」などの前向きなご意見を多くの先生からいただき、美濃大会をやってよかったと感ずることができました。というのも、現状として、美濃地区には教科部会が開ける中学校が二校しかありません。つまり、ほとんどの中学校にお一人ずつしか国語科の先生がいないという状態です。美濃地区の若手の国語科の先生たちは、「今回の県大会でたくさん学べて貴重な経験となった」「こんなに授業について議論し



[図1] 令和6年度美濃大会運営組織図

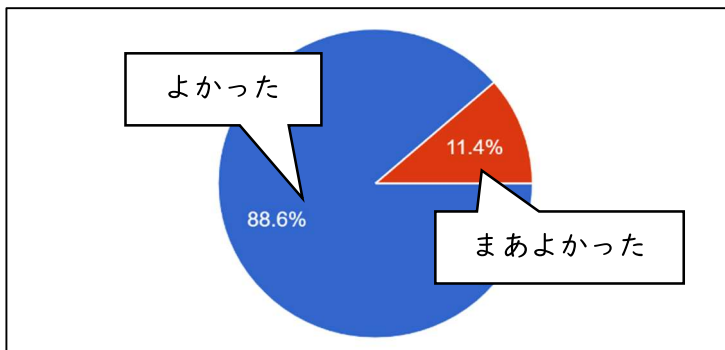


[写真1] 美濃大会準備委員会の様子

たことは初めて」と言ってみえました。  
 また、今回の美濃大会では、飛騨大会の振り返りを生かし、郡上市立明宝中学校（話すこと・聞くこと）、郡上市立白鳥中学校（書くこと）、関市立旭ヶ丘中学校（読むこと）、関市立緑ヶ丘中学校（言語文化）で、対面で公開授業を実施しました。四部会での授業は、どれも提案性のあるものばかりで、美濃地区の先生が中心となり、何度も研究の視点の共有や指導案検討を繰り返してきた成果が出ていたと感じます。授業後に行った研究会でも、活発な意見交流が行われ、充実した時間となりました。美濃大会後に実施したアンケートでは、参加した先生方から高い評価を得ることができました〔図2〕。当日の感想を、アンケートフォームを活用して参加者の方に頂きましたので、その一部を紹介させていただきます。



〔写真2〕 読むこと部会（旭ヶ丘中）研究会の様子



〔図2〕 美濃大会の運営についてのアンケート

#### 【運営面】

- 授業を生で見られる。他地区の方と授業研究できるのは違った視点があり興味深かった。
- 働き方改革の面で、授業力向上をしながらも、負担を減らすことが重要だと思うので、わざわざ別日に設けるより、既存の会を有効活用できた点がよかったと思います。
- 指導案をHPにあげていただいたことで、自分の端末で取り込むことができ大変有り難かったです。
- やはり対面で授業を参観するからこそ、学びがあると思います。
- 市教研を県大会と結びつける試みが、持続可能な県大会という意味でも、よかったと思います。
- 対面とオンラインのハイブリットだったので、両日参加できた。今後も、遠方で参加したい人にとっては、この方法は有効だと思った。
- 小規模校が多いという美濃地区の現状を踏まえた県大会となっており、美濃地区から県内へ提案することは意味のあることだったと思う。
- 持続可能な県大会の一つの形が見えた。市の教科研と関わらせたことにより、美濃地区のたくさんの先生方が主体者となり参加できたことは良かった。クリアすべき課題もあるだろうが、授業や分科会もオンライン参加できるような模索もしてみたい。学校を長い時間空けられない人も参加できる工夫をしたい。
- 参加される先生方や運営面での負担を減らしつつ、提案性のある大会という試みとしては一定の成果を得られた。
- 一般の参加者が少ない結果となりました。代議員を通じて、各地区への発信を行いたい。
- せっかく数年かけて準備してきたことなので、もっと一般の参観者の方が増えたらと思います。任意団体ではありますが、各地区の部長または代議員は必ず参加等は難しいでしょうか。

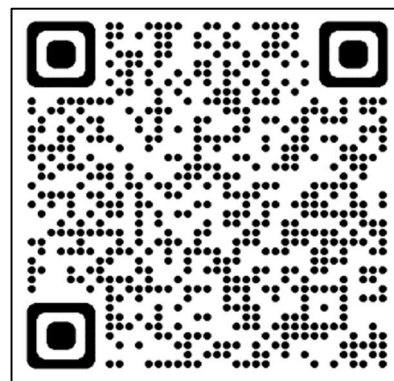
### 【研究面】

- 美濃市と郡上市の先生が力を合わせて今日の授業を作られたことがとてもよくわかる実践でした。夏の中国研から、ぐっと焦点化されたわかりやすい授業になっていて驚きました。
- 今回は教科書の文をモデル文にし、地域の活性化というテーマで実践編を行うので、割とどの地域でも真似しやすいと思いました。トレーニング編を設けることで、一人も取りこぼさない書くことの指導ができると思いました。
- 生徒の視点に立って授業を考え実践されていることが十分に伝わってきました。話すこと聞くことは、テーマ設定の難しさや、いかに子どもが自走できるように導入を行うかなどについて考えるきっかけになりました。美濃地区の実践を自分の授業に生かしていけるようにしていきたいです。
- 非常に勉強になる授業で、参観してよかったと心から思えました。授業後の研究会の時間もゆったりと用意されており、授業者からたくさん授業についての工夫や思いを聞くことができました。
- 参加者が生徒や授業者の姿を見て、清々しい気持ちになり、明日から授業頑張ろうと自らを振り返る貴重な機会になりました。
- 県の研究について、より一層重点を明確にしたり、地区の研究とのつながりを整理したりして、分かりやすい提案を心がけてほしい。
- 後で読み返したり、確認したりできるように研究総括や領域部長の提案をHP等でダウンロードできるようにしてほしい。

上記のご意見にもありますように、この美濃大会は市教研を活用し、対面とオンラインを併用した新しい県大会の形を示すことができました。前例がない中での新しい試みでしたが、本部役員の先生方、県の研究部員の皆様、美濃地区の国語科の先生方、関わっていただいた全ての皆様のおかげで、美濃大会を無事終えることができました。この成果と課題を明らかにし、令和9年度実施予定の西濃大会につなげていきます。

## 実践を広め、深める中国研ホームページの紹介

中国研の活動にご理解、ご賛同をいただけるように、そして、岐阜県規模の教科部会の資料共有の場として、中国研ではホームページを整備し、運用しています。中国研には、「研究部」として、「話すこと・聞くこと部会」「書くこと部会」「読むこと部会」に加え、古典を中心とした実践を積み重ねる「言語文化部会」の四部会があります。これらの部会が中心となり作成して頂いた、授業実践の指導案等を「中国研ホームページ」(<https://gifukokugo.com>)にアーカイブしており、様々な指導案・会議資料が閲覧・ダウンロード可能になっております。現在、ホームページには「美濃大会」の指導案、部会ごとに作成した単元構想表、「ぎふこくご賞」を受賞された先生の実践論文等が閲覧できるようになっています。このような取り組みを続け、生徒が満足感や達成感を得られるような汎用的な授業資料を作成、掲載していくことは、「国語が好きだ」「国語の授業はよく分かる」という岐阜県の生徒を育てることにつながっていくと思います。お困りの際や、授業改善、御指導で活用する際の参考にして頂けましたら幸いです [図3]。



[図3] 中国研QRコード



# 令和7年度 中国研活動計画（案）

日時	活動内容	留意点
5月14日（水）	第1回 役員会	※オンライン
6月4日（水）	第1回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各分会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・会長あいさつ ・令和7年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・ご指導（_____） 【研究部各分会の内容】 ・自己紹介 ・令和7年度の研究構想の共有 ・研究部の活動の確認	※オンライン
7月 日（ ）	第42回 NHK杯全国中学校放送コンテスト 岐阜県大会審査会	※会長、主務者、 情報部長が出席
8月20日（水）	県中国研夏季ゼミナール 光村図書教科書編集担当者による講話 「教科書編集に込めた意図と願い」 9:00～9:15 受付 9:30～11:00 講演会 11:00～11:15 質疑応答 11:15～11:45 県中国研より（提案、説明等）	※対面
講師：光村図書出版 中学校国語課 編集長 西村 智子（にしむら ともこ）様 場所：大垣市サイトピアセンター		
1月21日（水）	第2回 役員会 ・令和7年度の振り返り ・令和8年度の活動の方向の確認 ・ぎふこくご賞実践論文の審査	※オンライン
2月18日（水）	第2回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各分会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・会長あいさつ ・令和7年度の振り返り ・令和8年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・令和9年度西濃大会に向けて ・ご指導（_____） 【研究部各分会の内容】 ・令和7年度の振り返りと令和8年度の方向	※オンライン

## ■ 今後の県大会サイクルの確認

H22	→	H26	→	H29	→	R3	→	R6	→	R9
東濃	間3年	可茂	間2年	鉦(岐阜)	間3年	飛騨	間2年	美濃	間2年	西濃

※上記のサイクルで県大会を実施していく。各地区、各郡市の国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けることで県大会開催の意義が明確になると考えた。各地区の秋の市教研を公開授業（対面）とし、授業公開日に合わせてオンラインで全体会を実施するという美濃大会の開催方法を土台としながら、令和9年度に開催される西濃大会に向けて議論を重ねていきたい。

## 県中国研美濃大会を振り返って

美濃大会研究部長 関市立下有知中学校 半田 啓之

美濃大会実行委員 郡上市立八幡中学校 上村 光一

コロナ禍が明け、様々な活動が以前のように戻ってきた中、「教員の働き方改革」という世論が高まり、すべてを元に戻すのではなく、新しいスタンダードが求められるようになってきました。

コロナ禍真っ只中で開催された前回の飛騨大会では、県大会授業や全体会をリモートで行うといった試みが実践されました。しかしながら参加者の声には、「やはり実際の授業が見たい」「集まって研修したい」そんな声が多く聞かれました。そんな中で県中国研は「新しい形での県大会の在り方」を模索してきました。

今回の美濃大会では、「県大会の場として市教研を活用し、持続可能な県大会を目指す」という大きな試みをしました。「各地区の市教研を活用することで、県の取組を地区と共に考えることができるのではないか」「市教研を発表の場とすることで、教員の負担を減らすことができるのではないか」という考え方から「授業を参観したい」と「働き方改革による負担軽減」の両立ができると考えたからです。

令和5年度から実行委員会を立ち上げ、この2年間郡上、美濃、関の3市で授業を参観しあったり、市教研に参加したりして準備をしてきました。

そして今年度10月に県大会を無事迎えることができました。以前のように大規模な県大会とはいきませんでした。が、市教研を活用した県大会には一定の成果があったと感じています。

ご尽力いただきました会長先生をはじめ、諸先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。以下に特に運営面にかかわる成果や課題、次回西濃大会に向けての方向性を示したいと思います。

### 【○成果と▲課題】

- 単元の構想や授業案について、何度も練り直しを行ったり、事前検証を行っていただけたりと、県・美濃地区が丸となってこの大会に向かうことができた。（「最強の教科部会」の具現）
- 特に若手の先生方や普段一人で教材研究をしなくてはいけない先生方にとって、この大会を通して知見を高めることができた。また、県の研究部とつながりを持てたことで、今後相談できる相手が増えたことは国語教師としての安心につながられた。
- ICTの環境が異なっても、コンセプトを大切にすることで、同等の授業展開が可能であること、単元構想の中で、ICTの活用場面についてアイデアを出すことができた。
- 当日の全体会については、各会場校のご尽力や施設（関市においては学びセンター）の協力もあり、機器のトラブルもなく、滞りなく進めることができた。

▲県の研究部とのつながりはもてたが、各領域どうしの交流が少なく、お互いに進捗状況やアイデア等の情報交換・共有ができる場を設けるとよかった。（各領域部会が別々に淡々と進んでいるという感覚であった）

▲大会運営について、県がすべきこと、地区がすべきことを明確にしておきたい。（お互いにやってくれているという行き違いを防ぎたい）

▲県と美濃地区で創り上げた実践をもう少し県下の多くの先生方に参観できるように周知しておくべきであった。

### 【次回西濃大会に向けて】

- 実行委員会や領域部長会の機会を定期的に設け、進捗状況や困りごとなどを相談できる会を設定すること。  
→運営部や研究部でのLINEグループ作成やZoomでの打合せを企画することが必要。
- 県と地区が担当する役割の明確化（県と実行委員会の打合せの場をもつこと）  
→会場校への依頼や駐車場の確保、全体会や分科会の準備物等を県が行うか、地区で行うか等
- 代議員会を通じて、県大会を広く周知すること（参加人数に見合った場の確保が必要になるが）  
→実行委員会に各地区の代議員も加えたらどうか。

# 今年度の振り返りと令和7年度の方角性

岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大

## 授業における「汎用性」とは

### 1. はじめに

「岐阜県中学校国語科研究部会 美濃地区大会」(以下、美濃大会)では、美濃地区の先生方を中心として、県と地区の両部会をつなぐことで、実りある授業を行うことができました。美濃大会では次の三点を主張点として打ち出しました。

- ・「汎用性」を重視した単元構想
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立
- ・「指導と評価の一体化」を意識した評価計画

これを次の西濃大会につなげていくことが、今後の研究部に求められることです。

### 2. 美濃大会のまとめ

以下に示すのは、「ぎふこくご」でも掲載した美濃大会のまとめ(一部抜粋)です。

#### 【成果】

##### [話すこと・聞くこと部会]

- ・生徒が合意形成をする方法を理解することができた。合意形成の意味や難しさ、合意に至った際の達成感など、実感を伴う理解が得られた。
- ・合意形成するまでの方法を、教師からの教授ではなく、生徒自らが発見していく単元の仕組みを作成することができた。

##### [書くこと部会]

- ・「トレーニング編」「実践編」と単元内で大きな役割をもたせる単元づくりができた。本時の中でも前時の学習内容とつなげて話をする生徒が多かった。また、本時の内容が明確になり、見通しをもって学習活動に取り組むことができた。
- ・ICTを活用し、資料のアーカイブ化を行うことができた。資料を生徒や学校の実態に応じたアレンジをしたり、新しい学習活動を生み出したりすることにつなげることができた。また、アンケート機能を活用することで、振り返りを即時共有したり、個々に確認し合える状態にしたりすることで、全体で共有しながら振り返ることができた。

##### [読むこと部会]

- ・単元の導入で、作者のインタビュー記事を提示したことで、生徒が作品を読む必然性ができ、教科書の言葉以外の要素に目を向ける生徒の発展的な読みにつながった。
- ・単元の導入で提示した「貫く課題」に対する考えと、終末でまとめた考えとを比較すると、多くの生徒の考えに広がりや深まりがみられた。学びの実感を得られた。

##### [言語文化部会]

- ・推敲前の俳句を提示したことは、言葉に着目させるための手立てとして有効であった。また、話し合いの土台が導入で提示されており、交流で活用できるヒントカードなど、教師の手立て・声かけが適切であった。

### 【課題・今後の方向性】

#### 【話すこと・聞くこと部会】

- ・テーマ設定の在り方を考える。

#### 【A】教科横断的な発想

#### 【B】国語科内で完結する単元構想 等

- ・合意形成能力については、「系統性」を意識する。中一からどんな指導をするとよいかを考える。

#### 【書くこと部会】

- ・ICTを活用する際、交流時に画面を見てばかりいたり、読み上げたりしてしまう姿が見られた。交流の方法を吟味するとともに、交流の相手・目的意識を明確にしておく必要がある。
- ・「反論に対する意見」の扱いの在り方について吟味していく必要がある。反論ありきではなく、自分の主張に説得力をもたせるための手法の一つとして考える。また、主張の説得力を高めるために、どんな見方・考え方を働かせるかというスタンスで単元づくりを進めていくべき。

#### 【読むこと部会】

- ・「考えの形成」において、他者からの情報は、自己の考えを広げ・深める上で重要な要素となる。今回の授業においては、ペア交流・全体交流で生徒同士が自己と他者を比較したり、新たな情報を獲得して整理・分析したりするための視点の共有や教師の手立てが不十分だった。今後は、協働から再構築の場面で新たな手立てが必要になる。

#### 【言語文化部会】

- ・生徒が主観で感じていることについて、さらに言葉の意味を手がかりに具体化していけるとよい。
- ・本時の授業を生かすことでどのような言語活動のゴールへとつながるか、明確に伝わる授業公開になるとよい。言語活動においてどんな作品ができるのか見てみたい。

美濃大会の公開授業では、「実感を伴う理解（話す・聞く）」を得ることができたり、生徒の思考に「広がりや深まりが見られ、学びの実感（読む）」を得られたりする成果がありました。また、「トレーニング編と実践編（書く）」という明確な役割を持たせるなどの単元構想の工夫、「交流で活用できるヒントカード（言語文化）」の活用など、教師の手立てについても深まってきたように思います。

一方、「系統性を重視する（話す・聞く）」ことや「どんな見方・考え方を働かせるかというスタンスでの単元づくり（書く）」という単元構想の成熟、「どのような言語活動のゴールへとつながるか（言語文化）」という単元や教科、他の場面とのつながりについて考える必要が出てきました。

そこで考えたいのが、授業における「汎用性」です。

### 3. 西濃大会に向けて

美濃大会において、「読むこと」の授業者である旭ヶ丘中学校の古川寛之先生は、研究会で単元を振り返り、次のように話されました。

今回の授業では、「汎用性」を意識しました。特別な準備をしたり、大掛かりな掲示を作ったりするのではなく、どの学校、どの生徒、どの教師でもできる授業とは何かを考えて、取り組みました。

主張点の一つとして挙げた「汎用性」について、解釈しながら授業をつくってくださったことが、本当に嬉しく思いました。「誰でもできる」「どこでもできる」授業を提案することで、その授業を見た様々な先生方が、地域、経験年数に関わらず「やってみよう」と思えること。それが岐阜県の国語教育を底上げしていくことだと信じています。そういう意味で、「汎用性」を高めていくことは、これからも継続して行っていきたいと考えます。

しかし、「話すこと・聞くこと」部長の片山先生と話す中では、こんな内容が印象に残りました。

単元を構想する際、「話すこと聞くこと」ではいかに「場（学ぶ必然のある言語活動）の設定」を行うかが重要になる。その地域や学校に根差した特色を活用し、「これを考えてみたい」「ぜひとも考えなければ」と強く認識させるから、価値の高い合意形成が生まれる。しかし、そうやって作った単元は果たして汎用性が高いと言えるのか。地域教材は地区が変われば使えない。授業者と関係各所との連携も必要になるため、準備も膨大になる。授業（を行う、受ける）の醍醐味はそこだと思うが、その授業を公開して、どれほど「やってみよう」と思えるものになるのか。その葛藤がある。

この意見も、また然りです。「汎用性を高める」ことが「授業の本質から外れる、質を下げる」ことに繋がってしまうのは、避けなければなりません。「本質」と「汎用性」をいかに両立して高めていくか。今後の中国研では、そこに重点を置いて考えていきたいと思えます。

#### 【令和7年度 研究の流れ】

- ① 美濃大会で行われた実践をもとに、指導案を広く共有し、実践を重ねる。
- ② 共有した指導案を使い、実践を重ねる。
- ③ 各領域で実践例を集め、効果を検証する。

#### 【研究のキーワード】

# 「汎用性」と「本質」の両立

## 4. その他

### (1) 「令和7年度の研究部員継続のお願い」について

このように中国研としての活動を展開することができたのは、研究部員の先生方のお力添えがあったことです。ぜひ来年度も継続して、共に研究を進めていきたいと考えております。つきましては、3月3日（月）までにアンケートフォーム（Forms）にご回答をいただきたいと思えます。人事異動が関わることで、現時点でのご自身の希望で構いません。

#### 【令和7年度 中国研 所属部会 希望調査（Forms）】

以下の URL か QR コードからアンケートに飛び、回答してください。

<https://forms.office.com/r/xd6dTddd1k>



また、国語について共に学ぶ新たな仲間を増やしていきたいと考えています。新規で研究部員を希望される方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。

岐阜市立岐阜中央中学校			
本件担当者	北原 章大（研究総括）		
〒500-8804 岐阜市京町三丁目19番地			
TEL	058-265-1621	FAX	058-265-1622
E-mail	gichu02@chuou-j.gifu-gif.ed.jp		



# 令和6年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図

## 学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

## 令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

## 岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和5年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は71%となっており、全国の平均正答率(69.8%)を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、56.4%(全国平均61.4%)、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、80.1%(全国平均80%)である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。

## 【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かおうとする姿
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている姿
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めようとする意識

## 研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

### 〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」(＝楽しい)と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」(個別最適な学習)を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、  
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

### 〈研究内容〉

#### 研究内容① 指導計画の工夫

##### (1) 実践の再現性を高めるための、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成

- ・「生きてはたらく言語能力(指導事項)」が明確であり、指導と評価の一体化を意識した、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成。
- (2) **生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発**
  - ・「やりたい」「やるとできるようになる」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫。
  - ・「いつでも、どこでも、だれにでもできる」と思える汎用性の高い単元構想の工夫。
  - ・教科横断的、汎用的な力を付けるために最適な言語活動の工夫。

#### 研究内容② 指導・援助の工夫

##### (1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・「自己内対話」「他者間対話」「教材との対話」など、領域や教材に応じた対話的な活動の設定。
- ・ICTを効果的に活用した追求や交流など、新たな指導方法の可能性を見出す工夫。
- ・確かな根拠に裏付けられた、論理的な考えの形成を行うための指導の工夫。

##### (2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫(個別最適な学習の充実)

- ・生徒の学習状況を適切に見取り、B基準に達することができるような指導の工夫。
- ・生徒の個人目標を共有し、その達成に向けた援助の工夫。

#### 研究内容③ 評価の工夫

##### 生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫(指導と評価の一体化)

- ・生徒がなりたいたい姿やつけたい力を明確にし、その獲得までの見通しを具体的にもつための個人目標の設定。
- ・自己の変容を具体的な姿や形で自覚し、成長を実感することができる振り返りの工夫。
- ・具体的な評価方法や場を設定した評価の在り方の工夫。

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

# 令和7年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図 (案)

## 学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること (学習指導要領解説 総則編より)

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

## 令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

## 岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和6年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は60%となっており、全国の平均正答率(58.1%)を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、60.5%(全国平均64.3%)、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、82.8%(昨年度80.1%)である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。

## 【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かおうとする姿
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている姿
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めようとする意識

## 研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

### 〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」(＝楽しい)と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」(個別最適な学習)を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、  
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

### 〈研究内容〉

#### 研究内容① 指導計画の工夫

##### (1) 実践の再現性を高めるための、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想 (汎用的)

- ・「生きてはたらく言語能力(指導事項)」が明確であり、指導と評価の一体化を意識した、実践の再現性を高めるための「汎用性」の高い指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想。
- (2) **生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発**
  - ・「やりたい」「やるとできるようになる」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫。
  - ・「いつでも、どこでも、だれにでもできる」と思える汎用性の高い単元構想の工夫。
  - ・教科横断的、汎用的な力を付けるために最適な言語活動の工夫。

#### 研究内容② 指導・援助の工夫

##### (1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・「自己内対話」「他者間対話」「教材との対話」など、領域や教材に応じた対話的な活動の設定。
- ・ICTを効果的に活用した追求や交流など、新たな指導方法の可能性を見出す工夫。
- ・確かな根拠に裏付けられた、論理的な考えの形成を行うための指導の工夫。

##### (2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫 (個別最適な学習の充実)

- ・生徒の学習状況を適切に見取り、B基準に達することができるような指導の工夫。
- ・生徒の個人目標を共有し、その達成に向けた援助の工夫。

#### 研究内容③ 評価の工夫

##### 生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫 (指導と評価の一体化)

- ・生徒がなりたい姿やつけたい力を明確にし、その獲得までの見通しを具体的にもつための個人目標の設定。
- ・自己の変容を具体的な姿や形で自覚し、成長を実感することができる振り返りの工夫。
- ・具体的な評価方法や場を設定した評価の在り方の工夫。

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

## 1 授業

- ・ 中学3年生「合意形成に向けて話し合おう」

## 2 授業者

- ・ 郡上市立明宝中学校 藤村茂将 教諭

## 3 参観者の意見等(今後に向けた意見のみを抜粋)

- ・ 合意形成には、やはり「対立」が必要なのではないか。  
そして、対立を生むためには、「役割」が必要なのではないか。
- ・ 第1時で、受験の際の家族会議で、「役割」を決めて、合意形成の練習をしたようであるが、そちらの授業でもよいのではないか。

## 4 指導主事のご指導

- ・ 生徒たちが乗っていれば、「中間振り返り」は必要ないのではないか。

## 5 「話すこと・聞くこと」部会における今後の方向

### \* テーマ設定

- ・ 現段階の理想は、
  - ① 【国語】労力が比較的にかからない方法で、合意形成について学ぶ。
  - ② 【総合的な学習の時間等】国語で学んだことを活用する。
  - ③ 【国語】総合的な学習の時間等で、できたことを、レポートなどで提出をする。

- ・ 教師側が、教科等横断的な「仕組み」をつくり、生徒を乗せていく。

※ いずれにしても、「テーマ設定」が議論になる研究会は避けたい。

あくまで、合意形成のしかた等、国語の内容としての研究会としたい。

### \* 合意形成能力について

- ・ 「系統性」が必ず話題になってくる。
- ・ 中3の4、5時間だけでは、到底できない。そのため、中1から、どんな指導をするとよいか話題になるはず。

### \* 他教科等との関連について

- ・ 合意形成能力の育成をどのようにしているか、他教科の教員に伝えられるとよい(掲示でも可)。

# A 話すこと・聞くこと部会 令和6年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津中学校 片山 博寿

令和6年度 中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和6年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

## 目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
  - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
  - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切に指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
  - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

(2) 指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
  - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
  - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
  - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

(3) 評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
  - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
  - ・ 獲得した学びを、日常生活や社会生活において、どのように活用するとよいかを生徒と共有する。

# A 話すこと・聞くこと部会 令和7年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津学園 片山 博寿

令和7年度 中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和7年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

## 目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

### (1) 指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
  - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
  - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切に指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
  - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

### (2) 指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
  - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
  - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
  - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

### (3) 評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
  - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
  - ・ 獲得した学びを、日常生活や社会生活において、どのように活用するとよいかを生徒と共有する。



## 中国研美濃大会 書くこと部会の振り返り

文責：梅田

1. 日 時 令和6年10月21日（月）

2. 場 所 郡上市立白鳥中学校

3. 授業者 高橋 雅人 教諭

4. 振り返り

### <美濃大会の成果>

- 「トレーニング編」「実践編」と単元内で大きな役割をもたせる単元づくりができた。
  - ・ 本時の中でも、前時の学習内容とつなげて話をする生徒が多かった。
  - ・ 教師も生徒も、本時できるとよいことが明確になり、いずれも見通しをもって学習活動に取り組むことができた。
  - ・ 生徒の書くことへの抵抗感を軽減できたのではないか。
    - 単元内に2つのパートを作って展開するという方法を示すことができた。ただし、トレーニング編と実践編を分ける効果については賛否があった。時数との兼ね合いもある。二段階に分けることで、どんな違いが生まれるか、どんな効果があるかをさらに検証していく必要がある。
- ICTを活用し、資料のアーカイブ化ができた。
  - ・ ロイロノートで作成した資料を資料箱に入れることで、資料のアーカイブ化を行ったことで、国語教師が学校に1人という状況であっても、もともとなる資料、活用しやすい資料として活用できた。
  - ・ アーカイブ化された資料の存在が心強かったという意見が実際にあった。アーカイブされたものを、実態に合わせてアレンジしたり、新しい学習活動を生み出したりすることにもつなげやすい点で、効果的な活用方法であった。
    - タブレット端末や使用するソフトが一律でないが、一つの事例として大変効果的な活用方法であったと言える。
- ICTを使って振り返り（評価）を残すことができた。
  - ・ ロイロノートを活用し、記述したものを即時共有し、個々に確認し合える状態にしたり、アンケート機能を活用して振り返りを全体で共有しながら学習を振り返ったりすることができた。
  - ・ 振り返りを残すことで、指導に生かす評価、記録に残す評価、いずれにおいても適切な評価をしやすい環境を整えることができた。
  - ・ 評価の方法として、ICTが効果的であることを示すことができた。

→ 本時にはなかったが、アンケートを基に、質問を投げかけながら学習したことを言語化する方法は、いろいろな場で応用できそうである。ただし、単元で身に付けさせたい資質・能力（重点となる部分）については、必ず落とさないようにする必要がある。

#### ○その他

- ・ 単元構想表を活用すると、指導に生かす評価と記録に残す評価の区別を明確にしやすい。
- ・ 生徒がタブレット端末を使いこなしており、表現方法の一つとして定着しているからこそ、学習活動において ICT が大変効果的であった。

#### <西濃大会や今後に向けて>

##### ● グループ交流の際の交流方法の追究

- ・ ICT を活用して記述した際、交流時に画面を見る時間が増えてしまう。グループの仲間に説明する場面でも、画面を見てばかりの生徒が大変多かった。記述したことを読み上げて終わりという生徒の姿も多かった。

→ ICT を活用しても、説明する相手への意識を意識的に指導していく必要がある。

- ・ また、何を意図して交流活動を行うか、意図を明確にして活動を展開する必要がある。そのためにも、身に付けさせたい資質・能力を明らかにしておくこと、それを育成するにふさわしい活動であるかを吟味することを、引き続き考えていく。

##### ● 「反論に対する意見」の扱いの在り方

- ・ 意見文の作成において、反論に対する意見は必須ではない。自分の主張に説得力をもたせるための「表現方法の一つ」である。指導事項の中にも、反論を指導すると明記してはいない。したがって、反論ありきで授業を構成することは難しい。
- ・ 主張の説得力を高めるために、どんな事実をもってくるのか、その事実の解釈をいかに記述するか、そこにこそ、見方・考え方が働くというスタンスで単元づくりを進めていくべきか。



**B****書くこと部会****令和6年度の研究方向**

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

**令和6年度 中国研 研究主題****生きてはたらく言語能力の育成**

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

**目指す生徒の姿**

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

**令和6年度 「書くこと」部会 研究主題****相手、目的や意図、場面や状況に応じて、****考えが伝わる文章を書く能力の育成**

～論理の展開や表現の効果を考え、工夫して書くことができるための指導の在り方～

**研究仮説**

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

**(1) 指導計画の工夫****①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用**

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

**②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫**

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

**(2) 指導・援助の工夫****①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫**

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

**②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫**

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

**(3) 評価の工夫****①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方**

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

**B****書くこと部会****令和7年度の研究方向**

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

**令和7年度 中国研 研究主題****生きてはたらく言語能力の育成**

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

**目指す生徒の姿**

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

**令和7年度 「書くこと」部会 研究主題****相手，目的や意図，場面や状況に応じて，****考えが伝わる文章を書く能力の育成**

～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

**研究仮説**

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

**(1) 指導計画の工夫****①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用**

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

**②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫**

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

**(2) 指導・援助の工夫****①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫**

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

**②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫**

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

**(3) 評価の工夫****①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方**

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

## R6 岐阜県中国研 美濃大会の纏【読むこと部会】

### ○ R6の研究内容

※別紙『読むこと部会 令和6年度の研究の方向』参照

### ○ R6の実践に向けて（※R5からの申し送り事項）

- ・タブレット・ロイロノートの効果的な活用  
自分に合った方法や、分かるようになるために必要な手立てを考え、生徒が主体的に取り組んでいくための具体的方途
- ・考えを広げ・深め『再構築』するためのグループ学習  
グループ学習のねらいや視点を明確にして、生徒とも共通理解を図るための具体的方途
- ・身に付けた力の高まりを実感する終末  
自分の学びを振り返り、自己評価するための具体的方途

### ○ R6実践の【成果】・【課題】・【ご指導】

単元:心の動き『大人になれなかった弟たちに……』 授業者:古川 寛之 教諭（関市立旭ヶ丘中学校）

#### 【成果】

- ・研究内容(1)②に関わって  
単元の導入で、作者（米倉斉加年さん）が作品を書いた思いを収めたインタビュー記事を提示し、生徒が作品を読む必然性をもてた。それが、教科書の言葉以外の要素（作者の思いや時代的背景）に目を向ける生徒の発展的な読みにつながった。教員が教材研究や単元構想をする上で、考慮したい視点の発見にもつながった。
- ・研究内容(2)に関わって  
ロイロノートの活用は、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促す上で、重要な要素となる。  
特に、生徒が自席にいながら、他者の考え（立場）を知ることができ、その後の協働的な学習につながったり、それまでの学びを振り返ったりするなど、本時（単元）の課題を解決する上での情報収集がしやすくなる。教師も生徒の実態を把握しやすい。
- ・研究内容(3)に関わって  
単元の導入で提示した「貫く課題」に対する考えと、終末でまとめた考えとを比較すると、多くの生徒の考えに広がりや深まりがみられた。学びの実感を得られた。

#### 【課題】

- ・研究内容(2)に関わって  
「考えの形成」において、他者からの情報は、自己の考えを広げ・深める上で重要な要素となる。  
今回の授業においては、ペア交流・全体交流で生徒同士が自己と他者を比較したり、新たな情報を獲得して整理・分析したりするための視点の共有や教師の手立てが不十分だった。今後は、協働から再構築の場面で新たな手立てが必要になる。

#### 【ご指導】

- ・研究内容(1)に関わって  
生徒が学習を調整していくためには、単元の全体を知る必要がある。  
「単元構想表」を教師と生徒が共有し、その上で生徒自身が学びを調整していけるとよい。中国研の「単元構想表」は有意義なものであるから、それをどう生徒と共有するかを考えていく。
- ・研究内容(2)に関わって  
教師が生徒の学習時間を区切る必要はない。  
自分たちでゴールに向けて進んでいける展開や手立てを充実させていく。



## C 読むこと部会 令和6年度の研究方向

読むこと部会部長 下呂市立下呂中学校 上條 亘

### 【令和6年度 中国研 研究主題】

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

### 【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

### 【令和6年度 読むこと部会 研究主題】

## 文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

### 【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

### 【研究内容】

#### (1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
  - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
  - ・「読むこと」における実践の黑板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
  - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
  - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

#### (2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
  - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
  - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
  - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
  - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

#### (3) 評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
  - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
  - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的にする場の設定
- ②単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
  - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

## C 読むこと部会 令和7年度の研究の方向

読むこと部会部長 下呂市立下呂中学校 上條 亘

### 【令和7年度 中国研 研究主題】

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

### 【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

### 【令和7年度 読むこと部会 研究主題】

## 文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

### 【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

### 【研究内容】

#### (1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
  - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
  - ・「読むこと」における実践の黑板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
  - ・「読みたい」「読む必要がある」といった学びに向かう力を大切に教材開発・題材開発の工夫
  - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

#### (2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
  - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
  - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（協働的な学びの意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
  - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
  - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

#### (3) 評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
  - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
  - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的に設定する場の設定
- ②単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
  - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

## ①成果

- ・推敲前の俳句を提示したことは、言葉に着目させるための手立てとして有効であった。
- ・生徒が話し合うための土台が導入で提示されており、また、生徒が交流で困ったときに活用できるヒントカードや教師の手立て・声かけが適切であった。
- ・辞書などを有効に活用して言葉の意味や意義、使用された意図をつかもうとする姿があった。
- ・前時までの学習の積み上げをまとめとして残していくことで「ぎふの細道」に活かしていきたいこと（技法や言葉）が明確になっていた。
- ・教師自身が教材に親しみをもち、教材研究に勤しんだことが、生徒の前向きな姿勢につながっていた。
- ・言語活動が明確に示されたことで、意欲をもって古典に取り組む姿につながっていた。

## ②課題

- ・生徒が主観で感じていることについて、さらに言葉の意味を手がかりに具体化していけるとよい。例えば、「人間の力強さ」とはどのようなことか、など。
- ・本時の授業を生かすことでどのような言語活動のゴールへとつながるか、明確に伝わる授業公開になるとよい。（どんな作品ができるのか見てみたい。）
- ・個々の意見の質の差を埋めていけるような教師の問い直しがあるとよい。

## ③ご指導

- ・言葉による見方・考え方を生かすことが明確になっている学習活動を仕組むこと。
- ・知識、技能の定着を図る学習活動を充実させていくこと。
  - ①自分の知識や技能と結び付ける学習活動にすること。
  - ②知識技能の定着をらせん状にくりかえす活動にすること。
- ・また言葉の知識を伝えあうことで、自身の知識、技能の定着を自覚させること。
- ・一単位時間や単元のゴール（まとめ）の記述を明確にして、授業に臨むこと。
- ・教師の働きかけや役割が明確なグループ交流の在り方を吟味していくこと。
  - ①生徒が知りたいことを伝えられる。
  - ②説明について投げかけができる。
  - ③生徒自身が自分の言葉で説明できる。
- ・古典に『親しむ』こと具体を、さらに明確化していくこと。

# 言語文化部会 令和6年度の研究方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

## 1 今年度の研究方向

### 令和6年度 中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

### 「言語文化」部会として目指す生徒の姿

- ◎古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ◎社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ◎国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

### 令和6年度 「言語文化」部会 研究主題

## 言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

### 研究仮説

- ・古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

『言葉への自覚』を高める」の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

### 研究内容

#### (1) 指導計画の工夫

- ①多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
  - ・「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- ②語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
  - ・言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

#### (2) 指導援助の工夫

- ①古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
  - ・作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- ②「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
  - ・言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す・聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

#### (3) 評価の工夫

- ①生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
  - ・形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感ができる評価の場を設定する。

# 言語文化部会 令和7年度の研究方向（案）

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

## 1 今年度の研究方向

### 令和7年度 中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

### 「言語文化」部会として目指す生徒の姿

- ◎古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ◎社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ◎国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

### 令和7年度 「言語文化」部会 研究主題

## 言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

### 研究仮説

- ・古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

### 研究内容

『「言葉への自覚」を高める』の定義  
→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

#### （1）指導計画の工夫

- ①多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
  - ・「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- ②語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
  - ・言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

#### （2）指導援助の工夫

- ①古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
  - ・作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- ②「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
  - ・言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す・聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

#### （3）評価の工夫

- ①生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
  - ・形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感ができる評価の場を設定する。



# 代議員引継ぎおよび追跡について

令和6年度県中国研総務部長

郡上市立八幡中学校

上村 光一

今年度は昨年度の提案で、4月時点での引き継ぎを前年度代議員の先生方にも協力していただくことで、以前に比べると回答率や年度当初の報告率が上がってきました。

よって今年度も同様の手順を踏んで、引継ぎや連絡を確実に行えるようにしていきたいです。ただし、代議員名簿完成を学事録での最終確認を終えてからという方向にしたいと考えています。

## 【引継ぎの流れ】

①代議員会資料に引継ぎのための手順(資料①)を掲載し、総務部長より代議員会にて説明。

→代議員の先生方におかれましては、次の代議員が決定するまでは、引き続き代議員として連絡・調整を行っていただくよう、よろしくお願いいたします。

→異動等があった場合でも、引継ぎ事項が確認できるように、ホームページ (<https://gifukokugo.com>)をご活用ください。

※異動となった場合、連絡が取れるよう、下記メールアドレス宛に異動先および連絡先を総務部長までご教示いただけると幸いです。

②アンケートフォームの回答で、代議員が年度内にまだ確定しない郡市については、総務部長より、4月の年度初め期間に、R6年度代議員の所属校・連絡先に再度、QRコードまたはFAX用紙を送付いたします。

(5月末までにはR7年度代議員の報告をしていただけると幸いです。)

★この手順で代議員を確認し、令和7年度の「岐阜県学事関係職員録」にて、校長先生方の最終確認をし、代議員名簿完成とします。

## 【代議員引継ぎに関する質問・連絡先】

県中国研 総務部長

郡上市立八幡中学校 国語科 上村 光一(うえむら こういち)

TEL:0575-67-1010 FAX:0575-67-1011

Mail:[ko.uemura@gujo.ed.jp](mailto:ko.uemura@gujo.ed.jp)

## 【資料①】

令和6年度 代議員の皆様へ

令和6年度県中国研 総務部長  
郡上市立白鳥中学校 上村 光一

## 令和7年度 県中国研代議員の引き継ぎ等について

本年度のスタートを迎え、ご多用であると存じます。代議員の先生方には、県中国研の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和7年度の代議員の確認、及び引き継ぎについてご連絡いたします。昨年度末の代議員会において、次の代議員のご報告をお願いしているところです。あらためて、代議員が決定しましたら、次のような進め方で報告をお願いしたいと思います。

【「アンケートフォーム」を用いた代議員の確認】

(手順)

①Google フォームにリンクしている、右の QR コードをスマートフォン・タブレット等で読み込む。



②アンケートフォームにご回答いただく。

\*フォームにはメールアドレスを入れてもらう項目があります。これについては、資料などの送付のために使用いたしますので、学校のアドレスもしくは連絡が可能な個人のアドレスをご入力ください。もし不具合等で送信ができない場合は、次ページの引継ぎ用資料をご使用ください。

③R7年度の代議員さんに下記のメールアドレスをお伝えいただき、

「代議員の学校名」・「代議員の氏名」・「今後連絡の取れるメールアドレス」を

送付していただきますよう、ご連絡をお願いいたします。(書式は問いません)

\*なお、メールでの送付ができないご事情があれば、Faxでも対応いたしますので、その際はFax 番号を送付していただけると幸いです。

[ 送付先メールアドレス ] [ko.uemura@gujo.ed.jp](mailto:ko.uemura@gujo.ed.jp)

[連絡先・お問い合わせ] 郡上市立八幡中学校 上村 光一(うえむら こういち)

TEL 0575-67-1010 fax 0575-67-1011

お手数ですが、よろしく願いいたします。

# FAX 送信票

代議員引継ぎ資料

郡上市立 八幡中学校

上村 光一 宛

FAX 番号 0575-67-1011

令和7年度 中学校国語科研究部会代議員

## 報告用紙

令和7年度 (【地区名】 ) 代議員

\_\_\_\_\_ 中学校 \_\_\_\_\_

連絡用メールアドレス

\_\_\_\_\_

報告者

※新代議員本人の場合は記入の必要はありません

\_\_\_\_\_ 中学校 \_\_\_\_\_